200

frameCountが200になったときに現れるので200と名付けました。

どことなくチューリング・パターンに似ているのは気のせいだろうか。

この作品は配列を用いて作った作品(後ほど紹介する"炎")をcopy関数で加工した ものです。小さいrectを敷き詰めているので、fillとstrokeを変えると様々な色彩パ ターンを生み出すことが可能です。表紙の画像は白と黒以外の色を設定した例です。

```
float[][] box;
int si_box=600;
int box_r=0;
int ran_n=0;
float ang=0;
void setup() {
 background(255);
 box=new float[si_box][si_box];
 size(600,600);
  for (int y=0; y<si_box; y++) {
   for (int x=0; x<si_box; x++) {
     if (y==0) {
        box[x][y]=(int)random(0,255);
      } else if (y==1 && x>0 && x<si_box-1) {</pre>
        box[x][y]=(box[x-1][y-1]+box[x][y-1]+
                  box[x+1][y-1])/3;
      } else if(y>1 && x>0 && x<si_box-1) {</pre>
        box[x][y]=(box[x-1][y-1]+box[x][y-1]+
box[x+1][y-1]+box[x][y-2]+
noise(x,y)*2)/4*noise(x,y,x*y)*2.16;
  for (int stepx=0; stepx<si_box; stepx++) {</pre>
    for (int stepy=0; stepy<si_box; stepy++) {</pre>
     box_r=600/si_box;
     push();
      translate(stepx*box_r,600-stepy*box_r);
     noStroke();
      fill(255-box[stepx][stepy]);
     rect(0,0,1,1);
     pop();
void draw() {
 copy(0,0,width,height,
       -2,-2,width+2,height+2);
```

二次元配列を利用して各座標で利用する色にかかわる値を設定します。その後画面全体にrectを敷き詰めます。

色の情報をrectに設定し、 copy関数で加工します。

